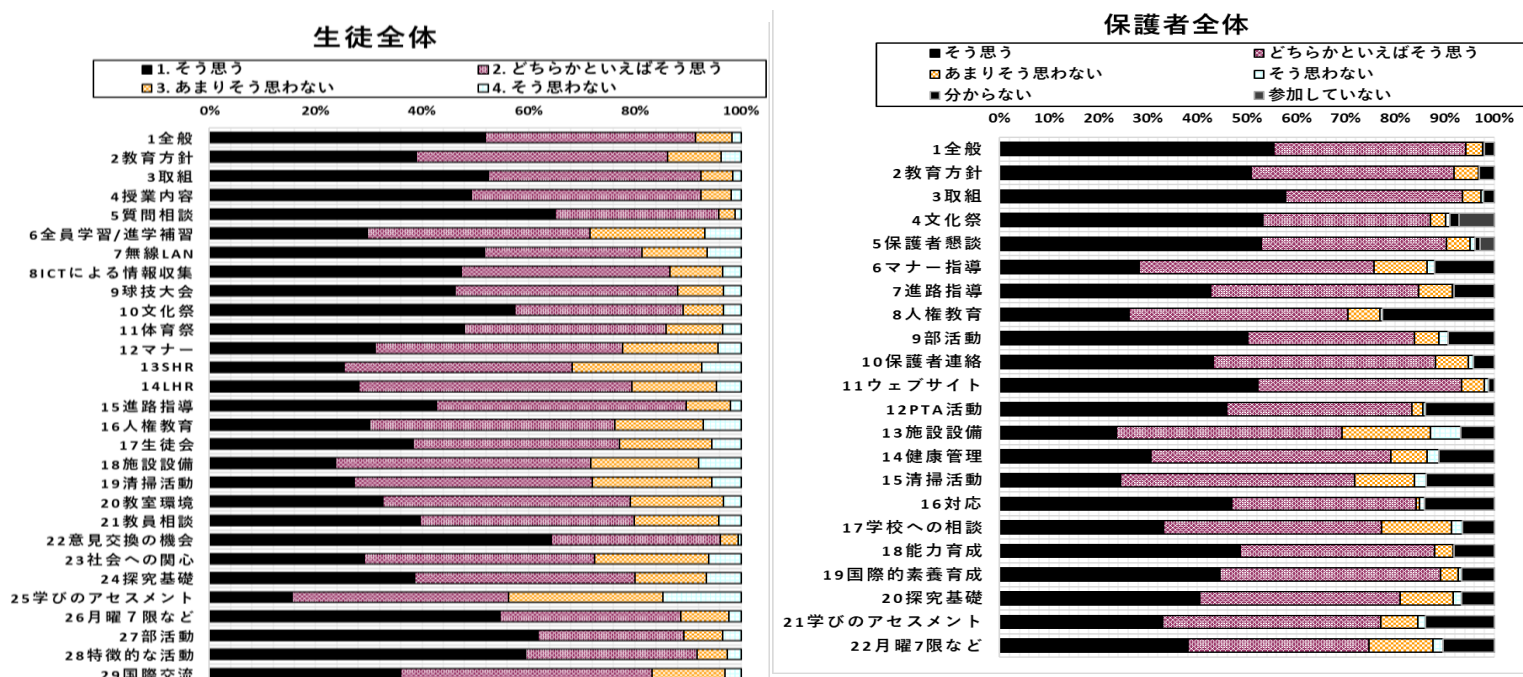


令和 7 年度 学校評価アンケート〔令和 7 年 1 2 月実施〕結果

12 月にご協力頂いた学校評価アンケートの結果についてお伝えします。今年度も「探究」を柱に「自立する 18 歳」の育成をめざしてひとつ一つの取組を行ってきました。生徒・保護者の皆様にどのように届いているか、各教員がそれぞれの取組について振り返り、生徒・保護者の皆様の声を真摯に受け取り、来年度に活かしていきたいと思います。



【教育活動全般】【授業と学習指導】【ICT 環境】【学校行事】について

全体的な結果については、生徒、保護者ともに、例年の結果と大きな変動はなく、生徒は堀川高校での学校生活に概ね満足しており、保護者の皆様には、堀川高校のさまざまな教育活動を概ね肯定的に捉えて頂いていることがうかがえます。生徒・保護者[1]「高校生活・教育活動は全般的に満足できるものですか」、[2]「教育方針を日々の活動に生かしていると思いますか」、[3]「取組が生徒の成長に効果的であると思いますか」の各項目については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒・保護者の割合（以下、肯定的な回答）がいずれもほぼ 90% でした。今後も本校の取組へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【授業】、【ICT】、【学校行事】の各質問につきましても、例年通り、肯定的な回答が概ね 80～90% となっています。一方、生徒[6]「全員学習」については、実施趣旨や目的を生徒諸君とよりよく共有し、目的達成のための講座や学年企画等の充実を一層図っていきます。特に、多くの生徒たちは[5]「質問・相談」や[21]「先生へ相談」、[22]「人と意見交換、自身の考えを説明」といった点において現状を肯定的に捉えてくれていることから、今後も生徒たちとの対話を重ねながら、よりよい取組にしていきたいと考えます。

【学校生活について】

生徒[19]・保護者[15]「清掃活動」に対する意識の低さが課題となっておりましたが、生徒や教職員の美化意識を高めるとともに、自分たちの学習環境を整えていけるよう、生徒会組織のひとつである環境衛生部会を中心に、日々の清掃活動やごみの分別などを行った結果、肯定的な回答が3年連続70%以上となりました。ただ、まだまだ不十分であるとの自由記述も多くあり、来年度、さらに丁寧に取り組んでいきたいと考えています。

一方、今年度特に課題と捉えなければならない点としまして、生徒[18]・保護者[13]「施設設備」の項目が挙げられます。生徒・保護者ともに、肯定的な回答が70%前後と低い数値でした。特に「夏の冷房」と「トイレ」に関わご指摘を自由記述に多くいただきました。「冷房」については、今年度の夏場は例年以上に暑く、本格的な夏のシーズンに突入する前からエアコンを「冷房」に切り替えて運転を開始しました。しかし、経年劣化を原因として複数のホームルームで冷房の不調が発生したため、即時に修理・修繕を行うとともに、スポットクーラーや冷風機を複数台導入するなど継続的に対応しました。結果的に、酷暑に十分な対応ができなかった場面があるため、京都市教育委員会に粘り強く現状を説明し、支援を得ながら現状の改善に向けて取り組んでいます。

「トイレ」についても、経年劣化がみられる設備の修理や交換だけでなく、「和式トイレ」の「洋式トイレ」への交換についても、現状の改善に向けて京都市教育委員会とやり取りを続けています。一方で、トイレの美化については、生徒たち自身による清掃活動と、定期的の実施している業者による清掃を組み合わせで行いつつ、学校とともに過ごす全員が、清潔に使用することの徹底も重要であると考えています。

また、生徒[25]と[26]が令和4年度から導入した新教育課程に係る「学びのアセスメント」と「授業のない7時限目」の仕掛けに関する項目です。「学びのアセスメント」に関して有効に活用できていると考える生徒が6割を超え、導入当時よりも改善傾向にあります。また、「授業のない7時限目」を有効に活用できていると考える生徒は9割を超えており、「余白」を活用して自ら学びをデザインするための新たなチャレンジに関して、肯定的な評価のポイントが向上しています。今後は、「学びのアセスメント」の活用をより効果的なものとし、有効活用できる方法を模索していくことが必要です。カリキュラム全体におけるこれらの時間のねらいを教職員・生徒間で確認しつつ、より充実した取組にしていけるよう試行錯誤を続けてまいります。